

⑪ WirusWin Racing & Team HIRO

GROM クラスで劇的 WIN!

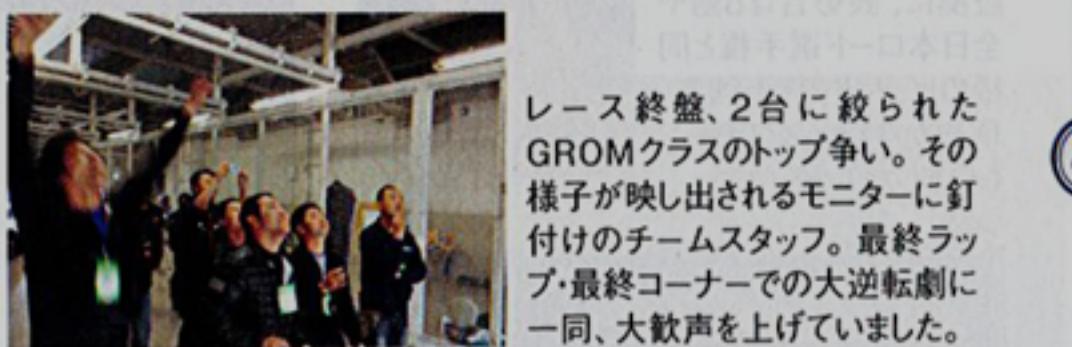
ミニバイクからビッグスクーターまで、多種多用なマフラーをリリースするウイルズウイン。グロムで参戦し続けているミニモトでは常に上位を獲得する実力派チームで、マシンは熟成の域に入っている。マフラーはレース用では珍しい2本出しどおり、排気効率を向上させながら音量をカット。オリジナルのECUで燃調を変更し、DID製チェーン、ISA製スプロケット、ダンロップタイヤで戦った結果、見事にGROMクラスの優勝を飾った。



ウイルズウインのオリジナルバックステップ。機能性を確保しつつ、無駄のないスリムな設計で、重量面でもメリットがある一品だ。



サブコンはウイルズウインの「マップマイク」を使用。PCだけでなくスマートフォンでもセッティングが可能。



レース終盤、2台に絞られたGROMクラスのトップ争い。その様子が映し出されるモニターに釘付けのチームスタッフ。最終ラップ・最終コーナーでの大逆転劇に一同、大歓声を上げていました。

① Realize Racing

ニューレコードを叩き出す!

昨年の覇者、リアライズレーシング。第2ライダーだった大庭(写真)をエースに昇格させ、松岡が新加入。予選A組では大庭がトップタイムを叩き出し、総合2番手から決勝を迎える……はずだったが、フォーメンションラップでまさかのエンジントラブル。マシンを修復してからは、3分12秒936というコースレコードをマークする速さを見せたのだから、残念無念!



④9 Team AZITO with 本氣 Racing / TT45

表彰台の一角をゲット!

東大阪に拠点を構えるAZITO。大会前日の練習セッションではタイムが伸び悩んだが、試行錯誤しながらマシンをセットアップし、ライダーの頑張りもあって予選から良い流れを掴む。決勝でもトップを争ったが、最後のピットインで遅れてしまい、3番手争いへ後退。それでも僅差で表彰台を獲得したのはお見事!



IMPRESSION by KISSY

トルクフルで乗りやすい!

AZITOの松村と、④杯西日本シリーズでMクラスのランキング2位の井田(本氣 Racing)がコンビを組んだ。

レース2日後、スポーツランド生駒(大阪府)で、キッサー岸田が試乗! 「コースインしてまず驚いたのが、トルク感がたっぷりのこと。ファイナルも鈴鹿のまゝなのに、グイグイ引っ張ってくれる加速感に驚いた。多少コーナーをサポートしても、マシンが助けてくれるね。シート、ステップ、ハンドルの各ポジションが変更され、前後への荷重バランスが良くなつたこともあり、とても乗りやすく仕上げられている!」

EVENT INFO

- RACE: 鈴鹿 Mini-Moto
- 4時間耐久ロードレース
- DATE: 2016年4月10日(日)
- PLACE: 鈴鹿サーキット

4時間後に笑うのは一体どのチームなんだ!?

F1や8耐の舞台になる、世界に誇る国際レーシングコースが鈴鹿サーキットだ。そのフルコースで開催される鈴鹿 Mini-Moto 4時間耐久ロードレース(以下ミニモト4耐)に、今年も全115台の100~125ccマシンが集まる。小さくて非力だからこそ、知恵と努力を振り絞ったアイデアが勝負を左右する。もちろん、支えてくれる仲間たちの存在も忘れてはいけない。彼らが織り成す徹底した真剣勝負の模様を、2006年大会の王者、キッサー岸田がリポートするぜ~。

PHOTO: 水川尚由／重松浩平
REPORT: キッサー岸田



2016 鈴鹿Mini-Moto
4時間耐久ロードレース

MACHINE PICK UP 注目マシンをチェック!

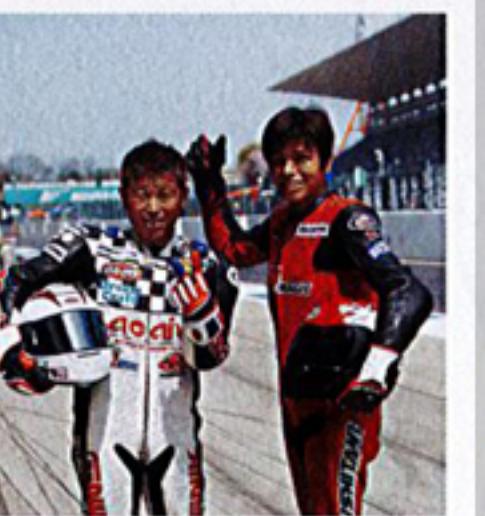
② NRマジック

序盤の速さは圧倒的!

今年の新兵器は、エボレックスと共同開発したエンジンオイル(1ℓ 4536円で間もなくリリース予定)。「S字の登りでトルクアップを感じた。熱ダレにも強い(エジソン中里)」と効果アリで、そのおかげもあってかレース序盤は圧巻のスピードでトップ争いを演じる。今年こそ優勝、と意気込んだエジソンだが、「使い過ぎてしまった」というビストンが悲鳴を挙げてまさかのエンジンブロー。開始40分ほどで、無念のリタイヤとなってしまった。



レースでの音量規定をクリアしながら、静か過ぎない低音域の効いたサウンドを奏でるNRマジック製マフラー。市販品なので、誰でも手に入れることができる。



ペアを組むのはNRマジック代表のエジソン中里(右)と松永。ミニバイクレース全盛期の80年代後半、関西のトップライダーだったベテラン同士だ。

773 真加部レーシング&T-Tech(有)&石蔵倉庫インテリアa

惜しくも優勝を逃す!

「悔しい~」とレース後に語ってくれたのは、最終ラップでウイルズウインの逆転を許してしまった小川と松浦。T-TECH製マフラーで、体重の軽いチビッ子ライダー相手でも戦えるパワーを発揮した。



86 99 111 ゼロファイターBY ていとな+RS ZERO

予選ポールポジション!

3台が出場した予選B組では1~3位を独占。3分15秒944でポールを獲得したのは⑪グロム、優勝した⑪はエイブ、転倒してしまった⑪はエイブ。スタッフも多く駆けつけて、バックアップも万全でした。



777 ナナカンバニー●大塚ヘンキ●西丸JDS●Wanee's

◎ 杯全国覇者がライド!

Kurodaya製のマフラーとバックステップを装着するグロムに乗るのは、2015年の④杯全国大会でFP4-STクラスを制した大津。時間の許す限り様々なセッティング変更にトライして、決勝ではさすがのバトルセンスを発揮。トップ争いを演じたものの、ピットインでペナルティを取られてしまい、周回数が減算されて脱落。

